

秀親ホットライン

Syushin Hot line



会務報告

県隊友会会長 松岡 貞義

終身会員の皆様におかれましては、平素から県隊友会の諸活動に積極的なご協力を頂き、心から御礼申し上げます。県隊友会の現状・活動等について報告させて頂きま

一 会員の現状

令和2年度末の状況は下表のとおりであり、令和元年度末に比し102名の減少となっております。個別に確認してみますと、入会者は81名で、退会者が183名（内75名ご逝去）です。重点施策である会勢拡大に努めておりますが有効な会員の増加には繋っておりません。

区 分		R2年度末	R1年度末	増減
正 会 員	年 会 員	1150	1,152	-2
	終身会員	2371	2,453	-82
	小 計	3521	3,605	-84
特 別 会 員		304	322	-18
協 力 会 員		1	1	0
会 員 総 数		3826	3,928	-102

また、昨年度から三年計画で自衛官の定年が延長されたため、更に会員増が見込めない情勢にあります。このようななか、会勢拡大の目標達成を目指し会の魅力化・活性化に努めるとともに、県内所在部隊毎に指定している入会促進会員を

中心に、各部隊の退職予定者の入会勧誘に努めるほか、海自第2術科学校での退職予定者管理講習や久里浜・武山駐屯地で実施される予備自衛官招集訓練の際に隊友会の紹介を行って入会勧誘に努め会員の獲得を図っております。

二 県隊友会の活動状況

昨年からコロナ禍の影響により令和2年度の事業は全国的に中止・縮小されました。当会においても中止・縮小しての実施を余儀なくされました。

(1) 令和2年度の事業実施の実績

① 隊友会本部定時総会（6/25・グランドヒル市ヶ谷）に会長参加

② 県総会、理事会は規模を縮小して実施

③ 海外派遣部隊の激励（4/2・5 護隊「おおなみ」、1 護隊「むらさめ」）

④ 防災関連

・ 地方自治体主催の訓練、海自横須賀地方隊警備区の会議、県隊友会の防災図上演習等は全て中止

・ 災害情報収集のためのメール交換訓練実施

・ 湘南支部と藤沢市の防災協定締結（7/15）

⑤ 追悼式・慰霊祭についても殆どが中止・縮小若しくは関係者のみで実施されました。神奈川県隊友会が共催している神奈川県殉職隊員追悼式に

会長が参列しました。

⑥ 防衛諸団体合同賀詞交歓会中止

⑦ 第42回神奈川県自衛隊音楽まつり2021は中止
⑧ その他、部隊研修等は全て中止しました。

(2) 令和3年度の事業実施予定

① 富士総合火力演習（無観客決定）

② 県隊友会定期総会（6/13）

③ 隊友会本部定時総会（6/24・会長参加）

④ 安全防災部会（7月、3月）

⑤ 部隊等研修

⑥ 神奈川県殉職隊員追悼式（11月）

⑦ 防衛講座（11月）

⑧ 防衛諸団体賀詞交歓会（1月）

⑨ 県隊友会防災図演（2/5）

⑩ 第43回神奈川県自衛隊音楽まつり

2022（3/6）

今年度になってもコロナウイルス感染症は終息の兆しは見えませんが、逆に変異株は猛威を振っている状況であり予断が許されません。計画の変更は、速やかにご連絡する所存です。神奈川県隊友会ホームページをご参照頂ければ幸甚に存じます。

神奈川県隊友会ホームページのQRコードを記載しました。





言っは易く行っは難し

県隊友会会長 松岡 貞義



昨年一月に日本国内で初めて新型コロナウイルススへの感染が確認されて

から一年以上が過ぎました。この間、二度の緊急事態宣言が発令されるなど、国民生活、特に経済活動は大きな影響を受けております。更に今年の四月に入り、感染拡大地域に対して緊急事態宣言に準じた対策が可能になる「まん延防止等重点措置」が適用されていたにも関わらず、変異ウイルスによる感染が大阪、神戸を中心に急激に拡大し、東京にも波及していることから、東京、大阪、京都、兵庫に三度目の緊急事態宣言が発令されるなど、未だコロナ禍終息の出口が見えない状況が続いています。(四月二十六日現在) 令和三年度に入り、ようやく医療従者に続き高齢者にもコロナワクチンの接種が始まりました。米軍では米国内での接種開始とほぼ同時期に米海軍横須賀基地の艦艇乗組員にもワクチンが接種されたと聞き、さすがに戦う軍隊であると感じました。一方で中東方面に派遣される海自艦艇は港外で二週間の隔離期間を経て総員陰性を確認した後日本を出国して

います。これら艦艇乗組員に優先的にワクチン接種ができないものか、高齢者の接種も重要でしょうが、まずは自衛隊、警察、消防など危機管理を担う組織に属する人に優先してワクチン接種が行われるべきではないでしょうか。もともと安全保障や危機管理への配慮を厚生労働省の役人に求めるのは酷かもしれせん。それでも、そのように導くのが政治の役目ではないかと憂うのは私一人ではないと思います。

さて、私が神奈川県隊友会会長に就任してから間もなく二年が経過します。この間、各支部長はじめ隊友の皆様のご支援を頂き、各種事業等に取り組んで参りました。しかし、昨年度はコロナ禍により、神奈川県隊友会の事業についても、その多くは中止や縮小を余儀なくされ、六月の県隊友会総会は出席者を極限した代議員会で代替え実施するなど、隊友会活動が低調化したことは否めません。また、自衛隊駐屯地、基地等の各種行事が中止あるいは参加者が限定されての開催となったことから、各種行事を通じての現役隊員への激励など部隊側との接点を持たなくなっており、隊友会各支部長や入会促進会員等の駐屯地、基地への立ち入りが規制され、指揮官等への隊友会活動の

説明や退職まじかの隊員への入会勧誘ができなくなっております。

このような状況下においても、現役隊員は、厳しさを増す安全保障環境に対応して肅々と任務を遂行しております。尖閣諸島周辺で一段と活発化する中国海警船の挑発行為や国連経済制裁決議に違反する北朝鮮の瀬取りなどに対する警戒監視活動、中東・ソマリア沖アデン湾における海賊対処行動や情報収集活動、あるいは国内での豪雨被害等に対する災害派遣活動など、拡大、多様化する任務に従事する隊員に敬意と感謝の意を表したいと思います。



海賊対処行動中の護衛艦

昨年度から県隊友会では、内在する問題を解決することにより、県隊友会の更なる魅力化と会勢拡大を図ることを目的に、「県隊友会の在り方検討」を進めて

います。その背景には、令和元年度関東甲信越静フロック研修会において、「退会者の現状とその防止策」について意見交換が実施された際に、隊友会活動の主体は各支部の活動であり、支部活動の活性化・魅力化の如何が会勢に直結するとの意見が大勢でありました。各県とも、会員の高齢化、減少に直面し、支部の活動の在り方について悩んでいることが理解できました。この悩みは、神奈川県隊友会も例外ではなく、各支部とも会員数の減少や高齢化の問題を抱えています。特に、一部支部においては、役員を選考にも苦慮しており、役員の任期が長期化し、一部役員に業務が集中するなどの問題が顕在化してきています。

このため、昨年度は、各支部から選出された検討委員を中心に、県本部及び各支部に内在する問題点を抽出し、まずは検討委員相互の共通認識を得るための議論を開始しましたが、残念ながらコロナ禍により検討委員会が一度しか開催できず、議論を深めるには至りませんでした。検討の二年目である今年度は、抽出した問題を個別に吟味して改善のための具体策を導き、要すれば規則等の改正を行いたいと考えております。

昨年「隊友誌」に本部常務執行役が投

稿した「禍を転じて福と為す」と題する記事の中に次のような一文がありました。

『厳しい状況にあつて、このような環境を絶好の機会と捉え、各種事業、活動の目的・目標に立ち返り、前例や固定概念に捉われることなく発想や柔軟な思考を發揮して、取り組みを大きく変えることが現在を任されている我々に求められているように思います』誠にもっともな提言ではあります。何ら具体策が示されておらず、正に「言うは易く行ふは難し」であると感ずりました。コロナ禍の中、県隊友会各支部においては支部長はじめ役員が、禍転じて福と為すために知恵を絞りながら活動しております。隊友の皆様には隊友会の在り方について忌憚のないご意見、ご助言を所属支部の役員までお寄せいただければ幸甚であります。

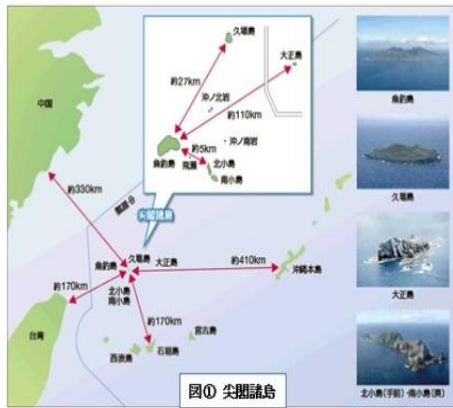


尖閣諸島・真の実効支配を!!

県相談役 寺地重告



日本固有の領土である尖閣諸島・図①に對し、中国公船による領海侵犯などが頻繁に発生し、日本の主権が踏みにじられ続けている。改めて尖閣諸島の領有権に関する主な資料を列挙すると、次のとおりである。



①一八八五(明治一八)年以降、日本政府は、尖閣諸島の現地調査を幾度も行い、無人島で、かつ、清国を含むいづれの国にも属していないことを慎重に確認し、一八九五(明治二八)年一月一四日に閣議決定を行い、日本の領土(沖縄県)に

編入

①一八九六(明治二九)年、那覇の海産物商・古賀辰四郎が、尖閣諸島でアホウドリの羽毛の採取・鯉節の製造等の事業を行うため、明治政府より三〇年間の無料貸与を受けるも一九一八年に死去、息子の古賀善次が事業を引き継いだ。一九〇九年には古賀親子による事業は最盛期を迎え二百四十八人が生活・図②していた。



②一九〇二(明治三五)年、石垣島大浜間切登野城村に編入・地番の標杭を設置、一九三二(昭和七)年、尖閣諸島は古賀善次に払い下げられた
③一九五一(昭和二六)年、サンフランシスコ平和条約第三条によって尖閣諸島を含む北緯二九度以南の南西諸島は米国の施政下に置かれ、沖縄返還協定に基づき一九七二(昭和四七)年五月に沖縄の

一部として尖閣諸島の施政権も日本に返還された

④一九七一(昭和四六)年、中国及び台湾が初めて公式に「領有権」を主張
⑤一九七八(昭和五三)年八月、政治団体日本青年社が魚釣島に小さな私設灯台を建設し、二〇〇五年二月に国に譲渡されて以降、海上保安庁が魚釣島灯台・図③として管理



図③ 魚釣島灯台

⑥一九九二(平成四)年二月、中国が「領海及び接続水域法」を制定、尖閣諸島及び南シナ海で領有権を争う島嶼を中国領と明記

⑦二〇二二(平成二四)年九月十一日、日本政府(民主党・野田政権)は魚釣島、北小島及び南小島の三島を地権者から購入し、国への所有権移転登記を完了

なお、前⑤項・中国及び台湾が領有権を主張した背景は、一九六九(昭和四四)年五月、国連アジア極東経済委員会の沿岸資源調査報告で、「東シナ海・南シナ海に石油埋蔵の可能性あり」と指摘してからである。これを裏付ける資料として、同一九六九年に中国で発行された

公式地図④に、尖閣諸島が日本名で「尖閣群島」と表記されており、西端に位置する「魚釣島」の名前も日本名で明記されている。



以上、前各項のとおり、尖閣諸島は、歴史的にも国際法上も疑いようのない我が国固有の領土であることは明白であり、そもそも解決すべき領有権問題など存在しない。これに対して中国は、前⑦項で尖閣諸島を中国領と明記して以降、領海侵犯など日本の主権を無視した不法行動を繰り返している。

そこで、誠に毅然としないのが日本政府・外務省の対応である。前⑦項・中国が尖閣諸島を中国領と明記した際も政府は中国に毅然と・激しく抗議すべきところ、当時の宮沢内閣は外務事務次官が在京中国大使に口頭で抗議「遺憾の意」を

伝えた程度である。また、前⑧項・尖閣諸島国有化の際も中国大使・丹羽宇一郎は反対意見を表明「実行されれば日中関係に重大な危機をもたらす、日本はおかしい」と当時の習近平副主席に媚びを売り、後に批判を受け更迭された。更に、昨年十一月末、茂木外務大臣が王毅中国外相の「尖閣諸島沖での中国公船の活動を正当化した一方的な発言」を反論することもなく聞き流したと批判を受けたが、最近も、尖閣諸島に字名「登野城尖閣」を示す行政標識を設置する沖縄県石垣市の要請に、政府は難色を示し、市職員の上陸さえ拒んでいる。このように毅然としない政府・外務省の姿勢で自国を守れるのか疑問に思う。また、その優柔不断な対応が逆に中国に付け入る隙を与えているような気がする。中国政府は、強大な軍事力を背景に、日本政府による抗議「遺憾の意」など「遺憾の尻」とも思っていないし、海警局公船も海保巡視船による警告「領海を出て下さい」など聞く耳も持たない。

政府は、今年二月二五日に開かれた自民党国防部会・安全保障調査会の合同会議で、中国が船舶などから島への上陸を強行した場合、まずは海上保安庁が「凶悪犯罪」と認定して、警察官職務執行法に基づいて「危害射撃」による制圧を試みる方針と報じられた。

一方、二〇二〇年版の防衛白書には、島嶼部への攻撃対応として「敵に先んじて部隊を機動・展開し、侵攻部隊の接近・

上陸を阻止する」とした上で、「万が一占拠された場合には、航空機や艦艇による対地射撃により敵を制圧した後、陸自部隊を着上陸させるなど、あらゆる措置を講じて奪回する」と書かれている。言うのは簡単であるが、今年二月一日に新たに施行された「海警法」で、海警局船舶は中国軍の指揮下にあり、武器使用も認めており、中国側の不法行動が原因とは言え、対応次第では紛争に発展する可能性もある。

したがって、政府は、中国軍が不法上陸するのを待つのではなく、そうなる前に、自国領土は自分で守るという毅然とした覚悟の下、機先を制し、尖閣諸島に「番屋、警戒レーダー、灯台や監視カメラなど」を設置して国旗を掲げ、目に見える真の実効支配を急いで確立すべきである。尖閣諸島は、既述のとおり、我が国固有の領土であり、これらの行為は国際法上、何の問題もない。近隣諸国も自ら自国領と主張する島嶼に、(ロシアは「北方領土」を、韓国は「竹島」を、台湾は南沙諸島の「大平島」を、フィリピンは南沙諸島の「バグアイ島」などを)それぞれ軍隊などを置いて実効支配している。

これら「番人の配置や目に見える施設等の整備」を図り、真の実効支配の確立とともに、万一の場合は自衛隊法及び海上保安庁法の如何なる法律(海上警備行動?)で対処するのか?現行法の足らざるところを早急に見直し、法整備を急ぐ

必要がある。

相手は、強大な軍事力を背景に国際法や国際秩序さえ無視し、南シナ海でも領有権を争う島嶼を力づく、かつ一方的に自国領にしてしまう中国である。我が国は、中国に尖閣諸島を乗っ取られないよう、また、同盟国である米国の信頼を得るためにも、現在建造中の中国の強襲揚陸艦が就役する前に、早急に、真の実効支配を確立すべきである。

このような観点から、政府には、「尖閣諸島は日米安保条約第五条の適用範囲に含まれる」という他国任せの条文に安堵することなく、「遺憾の意」では何の解決にもならないことを肝に銘じて、禪の紐を締め直し、毅然と対応して頂きたいと切に願うものである。



三島由紀夫のこと

湘南支部 府川 太郎

三島由紀夫ブームである。書店の棚には三島の本がいつものっている。三島を論じた本も毎年何冊か出版されている。著者は文芸評論家、元自衛官、元楯の会会員等多岐に亘る。

書物は50年経過したものを読めといわれる。三島没後50年、三島の師ノーベル賞作家の川端康成は三島の死の一年半後に没したが、川端の死を論じた本は

あまり見ない。私は若い時から三島が好きで大概の著書は読んだ。私の生家と三島邸が近いこともありバスの中で見たこともある。(三島はペーパードライバー、免許取得直後自宅前で溝に転落以来運転せず)などで親近感もある。だから昭和45年11月25日のことは印象深い。(この日は吉田松陰の命日、旧暦10月17日)この日のニュースでは佐藤総理と中曽根防衛庁長官から気狂い扱いされた三島だが、バルコニーの下で野次ったわりには自衛官は概ね三島に好意的である。被害者の益田総監は楯の会にやさしかった。

昨年の50回愛国忌はコロナ禍にも拘らず人があふれた。三島の死を文学の行きつまりと評する人もいるが、二十数年でのあの膨大な著作を見るととても枯渇したとは思えない。最後の著作「豊饒の海」第四巻の最終稿は自裁した当日編集者に渡されている。この作品は平安末期の浜松中納言物語を下敷きにした輪廻転生の物語だが豊かな古典の教養から紡ぎ出される言葉の美しさは比類がなく酔い痴れてしまう。次は「明月記」の歌人藤原定家を書きたいと言っていたそうだ。「紅旗征戎 吾力事二非ズ」。朝廷も源氏追討も関係ないと政治に背を向けた定家への三島の解釈を知りたかった。三島もそう言ってみたかったのだろうか。

川端の死と三島の死を結びつけた西法太郎氏の評論も面白いが綱淵謙錠は川端事故死説である。私にはどちらと断定で

きる知見がない。

木下天太郎は師の森鷗外を評して「テベ百門の大都」と表現したが三島のその活動の広域ぶりは鷗外の百門を凌駕する。鷗外にあつて三島にないものは専門的短歌と考證、翻訳位であろうが三島は加えて演劇(演出脚本)映画、思想行動、全共闘とのティーチンなど、更に自衛隊との関係もあり、おもちゃの兵隊と揶揄された楯の会も作るなどまことに多彩である。武道、ボディビルは有名だが写真集のモデルにもなっている。

私の生家近くに映画館があり、三島の初の主演映画「からっ風野郎」を観たことがある。チンピラヤクザと映画館切符モギリ嬢の純愛映画である。三島作品の映画化権が魅力であつたか当時大映社長の永田ラッパが三島主演をもちかけたそうで相手役女優は三島の好みを配した。

当方高校生ながら若尾文子の美貌に陶酔した映画だが、三島はこの時張り切りすぎてエスケーターから転落骨折、車の運転といい運動神経のなさがわかる。だから彼の武道はとても痛々しい。三島が余りに多才な為評価も多岐にわたる。自衛官、楯の会関係者の評論は文学論が欠如、文芸評論家は行動面を書かない。群盲象をなでるの感がある。三島の死は終結でなく問題提起だといわれる。林房雄は「日本の破滅への地すべりは三島の打ち込んだ支柱と杓(くい)によってくい止められる」と言った。自刃直前のサンケイへの投稿「これからの日本に大して

希望をつなぐことができない。無機質ラッパな国が残る」と書いた。市ヶ谷のバルコニーからの檄「自らを否定する憲法を守るという論理的矛盾、生命尊重のみで魂は死んでもよいのか」の訴えは今の日本の現状そのままである。三島は四年待った。もう待てぬといって戦後の日本の偽善を糾弾して、自ら憲法に体当たりして自刃した。

そして50年経った。ソ連に代わり中国が台頭しこの状況を作った米国は関与に及び腰である。福沢諭吉の言った如く「一身独立して一国独立す」というのに日本人は皆政府まかせ、米国まかせ、海保、自衛隊まかせだ。50年後が見えてしまっていたあの日の三島の心情を思うと私は今でも涙を禁じえない。



楯の会

外国人から教えられた日本文化

県顧問 濱野 靖

あるテレビ局の「世界ニッポンに行きたい人応援団」と言う番組があり、毎回案しんでいる。しかし、昨年からコロナ禍により外国人観光客等の入国が厳しく制限されているため、当番組も影響を受けている。

この番組の趣旨は、外国人が自国で日本の工芸品や武芸、日本食等に興味を持ち、そのノウハウをインターネットや紹介本等に基づき自ら実践するも、矢張り本場の日本でその技術を学びたいと熱望している外国人を日本に招待し、専門の技術者等の元で体験させるものがある。

この番組を通して、私の知らなかった日本文化の一端を外国人の力を借りて知ることが出来た。その例を紹介したい。まず「そんな技法があつたんだ」の例として、一般的な陶芸の技法は知っていたが、「練り込み」(又は練上げ)と云う技法は、陶芸用の粘土の色の違いだけで模様を作り、その味わいを楽しむ技である。例えば茶碗を作ると内側と外側が同じ模様となる。

次に着物の染色や装身具として活用されている「墨流し」技法であるが、平らなトレイに水を入れ、水面に墨汁を垂らすと渦模様ができる。専用の絵具を使えば、色合いと渦模様が楽しめる。(写真参照)

これ等「練り込み」や「墨流し」技法を外国の若者が興味を持っていたことで知ることが出来た。



「そんなところまでこだわっていたのか」の例として、急須の取手と注ぎ口の角度を八十五度にすることや、注ぎ口をわずかに内向けにするなど、使い易さに対する職人ならではのこだわりの技を教えられた。

「そんな漢字が使われていたのだ」それは方言漢字のことである。

話し言葉に地域ごとの方言があるように、漢字にもある地域のみで使われる漢字がある。例として私達が日常食べている「すし」は、関西においては「鮓」と言う漢字を奈良・平安時代から使っていた。江戸中期頃から関東では「鮓」と言う漢字を宛てていた。私達が日頃使っている「寿司」と言う漢字は、明治維新頃の時代風潮に合わせた江戸っ子による考案との説もある。

また、水田と隣の水田の境を「あせ」と呼ぶが、地域により「畔」と書き、別の

地域では「畦」と書くように、これらを方言漢字と呼ぶことを教えられた。

「当たり前と思っていたことが世界では珍しいのだ」私達は、家で食事をする時「ご飯茶碗や箸は、家族それぞれ各自専用のものを使っている。これが世界では珍しい」とある国の女性が話していた。日頃何気なしに使っている道具、それは日本人らしさであり日本文化であるが、これが異文化、異国人から見れば珍しく映る一例かもしれない。

「そうなんだ、知らなかった」秋の東北や北海道では鮭漁が行われる。河を遡上中の鮭から取るイクラが最高級品、魚肉を食するのは近海で獲った鮭が美味しいそう。一度最高品のイクラを食べて見たい。

オムライスには関西風と関東風があり、私達が通常食べているのは、関西風であることを知った。関東風は、具材と卵を混ぜ併せて焼く方法だそう。

コロナ禍以前、日本を訪れる外国人は、年間三〜四千万人と云われた。彼等が日本を訪れるのは、日本の治安が良いことを前提に、日本の古くからの文化に触れたいからである。インターネットで日本の文化に関する情報を世界各国において輕易に入手できることから、日本文化に関心を寄せる外国人が多く、本場物に触れなくなる気持ちは理解できる。

その日本文化は、本家本元の私達日本人ですら知らないほど幅広く、奥深い伝統

的な遺産であることを改めて知ることが出来た。これ等の文化を絶やささない努力が必要ではないだろうか。

(横浜市金沢区・陸)



引越見積支援サービスへの取組と 3・11に思ったこと

横須賀支部長 濱田 暢喜

新型コロナウイルスの感染がいつこうに収束しませんが、読者の皆さんにおかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。ひよっとするとすでにワクチンを接種された方もおられるかもしれませんが、ワクチンの効果に否定的な情報や副反応を心配する向きもあるようですが、感染拡大防止の各種対策が決め手を欠き、また治療薬も出現していない現状においてはやはりワクチンは新型コロナウイルス対策の切り札だろうと思います。個人的にはワクチンの接種が進めば、様々な分野でようやく次の段階に向けた展望が開けるものと大いに期待しているところです。

さて、横須賀支部の令和2年度を概括します。当支部が年度当初に計画した各種の行事、イベントなどは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、軒並み中止や書面審議への変更、さらに自粛などとなりました。また、関係の自衛隊各部隊の行事なども部内のみで実施と

の制限から、例年に比べ交流機会が極端に縮小しました。会勢については、近年の再任用者の増加や定年延長により定年者が激減することで即日入会者の大幅な減少が予期されましたが、年度末の会員数は物故された方の数を差し引けば微減にとどまり、会勢の減少を食い止め拡大する努力が一定程度実を結んでいるものと評価しています。

収支決算も、同様の状況下にありながら前年度比でごくわずかな赤字に収まったことは、支部会委員の熱心なご支援や隊友紙や支部だより等の発送回数削減など関係者のコスト削減への真摯な努力の成果だと認識しています。引き続き支部だよりを部内作業で編集するなどコスト削減に一層努めるとともに会費納入率の向上を目指すなどして、収支の健全化を追求していく所存です。

ここで隊友会の引越見積支援サービス事業について、当支部の取組をご紹介します。ご存知のように昨年度、隊員の異動に伴う引越の代金については、異動後に最低3社の引越業者の相見積もり書と実際に利用した業者の領収書を提出すれば、これらの内最も低い料金が当該利用隊員に支給されるように関係規則の改正が行われました。

この改正に基づき、隊友会は引越業者（現在4社）と提携し異動する隊員の引越見積依頼を代行支援することで、多忙で時間的制約も多い隊員自らが引越業者各社に見積の依頼をする負担を軽減する

とともに、合わせて隊友会の知名度や認知度の一層の向上を図ることを事業の狙いとしています。

この事業の実施に関する調整先は隊員の福利厚生を担当している防衛省共済組合であり、当支部の担任地区には防衛省各自衛隊の多くの機関部隊が存在することから、防大支部、久里浜支部、横須賀支部、船越支部、田浦支部、楠ヶ浦支部（米海軍ベース内）、横教支部など共済組合支部も多数存在しています。加えて、武山三浦支部と協力して武山支部についても担任することとし、サービス開始にあたって当支部事務局ではこれら多くの組合支部との事前調整を行いました。当初、いずれの組合支部にとっても寝耳に水のような話であり、少なからず警戒感もつかげましたが、当支部担当者大木事務局長の地道で粘り強い説明、交渉のおかげでサービスの目的や内容、当支部から組合支部への依頼事項などを理解いただき、最後には協定書の交換や、ハンフレットの設置、厚生ニュースへの掲載、組合支部ウェブサイトにへの掲示、引越相談会の開催認可など大変積極的な支援をいただくことができました。

利用者は本サービス開始以来すでに70名を数え、利用者の所属も担任区域内全般に広がり、また利用者の階級も様々です。鹿児島県鹿屋市にある海自鹿屋航空基地からウェブを見て知ったという思わぬ利用申込みもあるなど、サービスそのものの知名度は徐々に高まっています。

るようです。

引越の含見積は 隊友会へ!

実費払いの引越申込み、即日対応の隊友会へ申込みください。

隊友会は、全国ネットの大手引越社である日本通運、サカイ引越センター、アート引越センターへ、三八引越センターから3社以上の引越を一括して手配します!!

- ① ネットワークの中で、定額（引越）が、もちろん「引越」で済んで、職員の移動費や引越センターの引越料にプラスして、引越料を支払っていただきます。
- ② 引越サービスは、引越センターの引越料のみならず、引越センターの引越料にプラスして、引越センターの引越料を支払っていただきます。
- ③ 引越料は、引越センターの引越料にプラスして、引越センターの引越料を支払っていただきます。
- ④ 引越料は、引越センターの引越料にプラスして、引越センターの引越料を支払っていただきます。

日本通運

サカイ引越センター

アート引越センター

三八引越センター

事業を進めていく上で当支部が特に気をつけているのは、決して間違いを犯さない、ということ。異動内示はさほど余裕ある時期に出るわけではないことから時間的余裕の少ない中でトラブルが起きるとサービスをj用する隊員には大変な迷惑が及ぶし、隊友会もまさに「武士の商売」とのそしりを受けることとなります。見積申込みの多くはファックスで行われ、担当から提携引越業者全てにこのファックスを転送するのですが、当支部担当は毎度ファックスの送信を業者に連絡し受信を確認したり、利用隊員から引越業者からの連絡がないとのクレームを受けて業者に対応の促進を促すなど、确实丁寧な心掛けを心がけています。また、この受付は本部ウェブサイトやメールなどでも可能ですが、当支部では受付後利用隊員一人ひとりに直接コンタクトして、あらためて懇切に説明しサービスそのものに安心感を持ってもらうよう努めています。

さらに、異動シーズンに合わせて駐屯地基地内厚生センターなどで引越相談会を実施（すでに5回実施）して、隊友会へのほりや旗なども掲示しながら隊員に直接このサービスを紹介し利用の促進を図るとともに隊友会とその活動もアピールしています。

これらの活動は矢木事務局長及び河野事務局員の献身に極めて多くを負っているのですが、あくまでも隊員の皆さんの負担が少しでも軽くなればという真摯な思いで日々取り組んでいますので、読者の皆さんも機会がありましたら現役隊員の皆さんにこのサービスについて紹介いただければ幸いです。

話題は変わりますが、本年3月11日の前後には発災後10年を経過した東日本大震災に関する特別な報道が多数ありました。これらを見ると犠牲者への追悼の念とともに、自然の猛威や自衛隊の総力を挙げた災害派遣の様々な活動などがフラッシュバックしました。

報道の中には、当時災害対策本部長であった菅直人総理が、対策本部が置かれている官邸を離れ福島第一原子力発電所に赴き原子力災害の現場を視察したことや東電本店に乗り込んで直接指示したことを振り返り、そのような行動根拠を本人に確認するとともに、その適否を有識者がコメントするというテレビ番組がありました。当時は菅氏の軽率と戒めるような声が大きかったような記憶がありますが、日本の半分がひよっとすると壊滅

しかねないときに問い合わせに対する回答が理解できないような内容だったことやいつまでも回答が来ないことに、居ても立っても居られなかったという菅氏の発言には一定の重みと同情を感じました。いうまでもなく指揮官の位置というのは軍事の分野でも重要なテーマであり、事の大小はあるものの読者の皆さんの多くがこのことに悩んだ経験をお持ちのことだと思います。私も想定外の事故や被害が発生し、状況がいつまでも不明だったり事態が中々好転しないため、自ら現場に乗り込みたい気持ちと現場の対応を信頼、尊重すべきという気持ちと葛藤してじりじりしたことを思い出します。

一般的には、現場が混乱するから、あるいは現場が状況を一番把握しているから、などという理由からむやみに現場に介入することは不適当とされるようですが、戦史を見ると樺山軍令部長が現地に赴き作戦指導に当たったことが要因で勝利した日清戦争黄海海戦や大東亜戦争劈頭のハワイ作戦第二撃問題など、中央による現場への関与によって成功したケースや、逆に作戦目的達成のためには上級司令部などのより積極的な関与が惜しまれるケースが多いように思っは、誤りでしょうか。

もちろん、現場への積極的な関与が勝利や成功するための真理である、などと言いつつもりはありません。詰まるどころ、関与すべきか待つべきかの判断基準も、自己の選択に後で悔いることにならない

か、選択の結果により生起したりスクを
負う覚悟があるか、というありふれたと
ころに落ち着くのかなと思っています。

コロナ禍の中、非常事態宣言を発令・
解除すべきかどうかや東京オリ・パラを
開催するか中止するかなど、関係者にと
っては二者択一を真にギリギリと迫られ
る社会状況が続いていて、当支部におい
ても計画した事業を実施すべきか中止す
べきかを決心する場面が増えているのが
現状です。その度に優柔不断で支部会員の
の皆様には、「迷惑をおかけしているのだ
ですが、今後とも会員ファーストを忘れず、
そして会員の安全安心の確保を判断基準
の最優先にしていける所存です。」

最後に、皆様の益々ご健勝くださいま
すよう祈念いたしますとともに、引き続
き当支部の活動にご支援とご理解を賜り
ますようよろしくお願い申し上げます。



もう一つの感動



横浜南支部長 五島浩司

新型コロナウイルスの
第4波到来が懸念される

最中、明るいニュースが飛び込んできた。
プロゴルファーの松山英樹選手が世界最
高の夢舞台であるマスターズで優勝した。
青木、尾崎や中島でも成し遂げられなか
った日本人初（アジア人としても初）の
快挙に日本中が湧き、世界が松山選手を

称賛した。早朝からテレビ中継を見てい
た多くのファンは寝不足になっても応援
の甲斐があった筈だ。

しかし日本人として更に嬉しく、誇り
に感じたのは、偉業達成の裏で松山選手
とともに闘ったキャディーの早藤将太さ
んの行動が世界から称賛されていること
である。最終日の18番ホールで、松山選
手が優勝のバットを決めた後、早藤さん
はピンを戻し、帽子を脱ぎ、コースに向
かって深々と一礼した。これについて早



藤さんは「自然に（お
辞儀が）出ました。」
と語っている。松山選
手とともに闘い、優勝
できたことに対する感
謝と戦場となったコー
スや他の競技者、また
試合関係者など全てに
対する敬意の表れだっ

たのだろう。この一連の行動を「日本人
らしい姿勢が素晴らしい」と海外メデイ
アが取り上げた。ネット上でも「なんて
素晴らしい瞬間だろう。」「尊敬に値す
る。」「凄い光景だ。」「さすが日本人
だ。」「日本人は素晴らしい。」「と賞賛
の声が相次いだ。

しかしこれは日本人にとっては特別なこ
とではない。日本にはその文化がある。
小学生の野球やサッカーチームでも練習
や試合の前後には監督、コーチ、試合相
手、審判、そしてグラウンドに対して感
謝と敬意の一礼を行っている。私も小学

校のソフトボールチームのコーチとして
子供達にこれらの礼儀を教えた経験があ
る。スポーツチームに子供を入れる多く
の親が最も期待するのは、子供が技量を
身につけて、将来オリンピックピク選手やプ
ロ選手に為ることではなく、スポーツを
通じて、このような躰や礼儀を学ばせた
いということだと言っている。勿論、親にも躰
や礼儀を教える責任はあり、それを丸投
げするのは感心できないが、監督やコー
チという立場の者が同時に多くの子供に
向けて教えることで子供は指導をより受
け入れやすくなるのではないか。小学1
年生が初めから感謝と敬意を込めて一礼
しているとは思われないが、まず形から入
って、徐々に学び、理解し、身につくこ
ともあるだろう。日本の教育の素晴らし
い一面が世界を感動させたと言っても過
言ではないと思う。今回はマスターズと
いう世界が注目する大舞台での行動だっ
たが、もし同じ状況なら早藤さんと同じ
行動を取る日本人は少なくない筈だ。昔
からこのような行動は、数多くの場面で
数多くの日本人が当たり前のように行っ
てきたことである。しかし今回の早藤さ
んの行動で、その当たり前が世界から称
賛を浴びたのだから、日本人、特に若者
にはもっと日本に自信と誇りを持って欲
しいと思う。松山選手の快挙とともに心
から感謝と敬意を表したい。



マスターズ水泳を振り返る

東北支部顧問 二町 悦雄

マスターズ水泳に参加してから、もう
何年経っただろうと思うようになった。
今、思えば海上自衛隊を定年退官して、
かれこれ28年が過ぎた。

傘寿を過ぎ、コロナ禍での日々を過ごす
中で、今迄の記憶を楽しむことでまだま
だこれからだ、と新たな意欲が見出せ
るような気がしてきた。

ここで、幼少の頃からの水に親しんで
きた経緯を辿って見る。

小学生の頃は、夏の遊び場は「つつみ」
（ため池）であり、今日のように何処に
でもプールがある時代ではなかった。高
校時代は、水泳部に入部したが学校には
プールがなく、練習は近郊の川である。
故に大会に出場すれば、ターンもろくに
出来ず何時も順位は（プール掃除）であ
った。

そして海上自衛隊に入隊してからは、12
コースの旧海軍のプールで泳げるようにな
った。まだ、爆弾址の残るプールで水
泳訓練である。

海上自衛隊の水泳大会も、舞鶴・江田
島で毎年開催された。大会内容は、アマ
ステルダム大会200m平泳ぎの金メダ
リスト鶴田義行氏（故人）が模範泳法を
ご披露されたり、日本泳法の妙技や隊員
からの遭難時のサバイバル法など多岐に

わたった。競技種目に立ち泳ぎもあった。退官後はマスターズ水泳に選手として、各地大会に出場するようになった。チームは下総基地に所属していたことから、柏市にある柏洋スイマーズである。大会は全国各地で開催され、その間の成績はリレーで世界新記録も出し、日本記録は8回残すことができた。

最近の大会出場は、2019年のジャパンマスターズ(福岡)であるが、自由形2位・バタフライ3位とまずまずの成績を残すことができた。

しかしそれ以後は、新型コロナウイルスの発生により、大会が軒並み中止となり今日に至っている。

現在は「マスターズ水泳キーワード9」を頭に、再開される日を楽しみにしている。

マスターズ水泳キーワード

- 【マ】マイペース ゆゆうゆう大きなストローク
- 【ス】進んで受けよう メディカルチェック
- 【タ】タイムより楽しい水泳 健康づくり
- 【一】(ア) 頭を使って 泳ぎの工夫
- 【ズ】ずっと前の若さと力あてにせず
- 【す】睡眠 食欲 体調 チェック
- 【い】いつも練習 あつてこそ 楽しいレース
- 【え】エイゴで 退く勇気が 大人の水泳
- 【い】いい笑顔 気力も充実 輝く 高年



子供時代のはなし

県理事役 入江 哲二



TVもゲームも無かった子供のころなにをして遊んでいたか、2・3の遊びを思い出してみる。

夏休みは海で食糧を獲得していた。漁場は縄張りがあったようだ。私の兄弟は何時も西側の磯で3・4か所ある岩場をあさっていた。漁業権があったかどうか知らないが自由に捕獲ができた。自分が定めた場所は他人には教えない、目印の無い海面から潜るとそこに割れ目等があり獲物が潜んでいる。十数年後小月航空基地に勤務した。夏、部下を連れて昔潜った近くにキャンプに行った。昔探った

場所ので潜り獲物を得た、三つ子の魂云々・体が覚えていた、ただその時は漁業権があったようで密漁した事になるかも知れないが三四半世紀前のことで時効として許してほしい。

退官後就職した会社の若い社員に「昔は貧しくて、サツマイモ、サザエやアワビ、カニをとって食べていた・・・」と言ったら「そんな贅沢をしていたのか!」と言われた。落語の世界だ!!!!

海辺の松林のなかでスペースを見つけ、部落の子供同士で野球のまねごとをする。人数が2チームもないうえ、狭い場所なのでベースはホーム、1塁、3塁の三角形だ、ボールは綿を丸めたもの、バットは竹竿、勿論グローブなどは無い、部落間の対抗意識もあった。また、砂浜では相撲をとったりして子供なりに工夫して遊んでいたものだ。

初夏にはヤマモモを探して食べ歩き、秋には野生のシブ柿を渋抜きして食べ、アケビ、野イチゴ、木イチゴ、椎の実、桑の実など食べられるものは全ておやつになった。現役時代に小松島(徳島県)に赴任した時ヤマモモが沢山あり、探って食べようとしたが「売り物」と聞いて驚いた。幼少の頃の夢がさめてしまった思いがある。

夏休みに登校日が何日かある。その1日は学校の下刈(苗木の下の草刈り)が実施される。学校から1時間くらい歩いて山に入る。傾斜した山に植林された杉(檜)があり、夏の日差しを受け雑草

がおい茂っている。前日親が研いでくれた鎌を持って作業をする、蜂に刺された人はいたが、怪我をしたと言っ話ば聞いていない。刃物を扱うことは生活の一部だった。今時ナイフで人を刺す、怪我をする等事件を聞くとも時手も手にしていた小刀(肥後の...)が嘘のように思われる。作業終了後にアイスキャンデーが出るのが楽しみだった。(当時アイスキャンデー3本10円)



肥後の守



8月末には6年生が登校日、運動場の草取りが実施される。1か月半に伸びた草を抜く作業で夏も終わった事を感じたものだ。中学校では学校田があつて春に田植え、夏に草取りを秋には稲刈りしたな!「三四半世紀過ぎた今あの杉の木はどうなっているかな!」山の場所も特定できないが訪ねてみたい。

菅総理の初心表明だったか、「自助、共助、公助」だと言ったら、野党から反発を受けていた。小さいころから自助?(自力)で育った私たちには当たり前のように思うが古い考えかな。昔の事を思い浮かべると歳だと笑われるであろうが、まだまだ生きてやるぞ!と感じるこの頃でした。

叙勲おめでとうございます

次の県隊友会会員の方々が受章されました。誠にめでたくございます。

令和2年秋

〔瑞宝中綬章〕

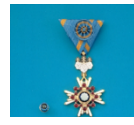
半田謙次郎 (県央・海)



瑞宝中綬章

〔瑞宝小綬章〕

佐原章友 (横須賀・海)
竹中 信 (横浜南・海)
長尾好太郎 (横浜北・海)
藤原 裕 (県央・海)
渡邊洋一郎 (横浜北・海)



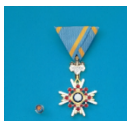
瑞宝小綬章

〔瑞宝双光章〕

工藤良一 (横須賀・陸)
住吉則昭 (横須賀・海)

〔危険業務従事者・瑞宝双光章〕

大川郁生 (横浜北・海)
児玉啓二郎 (川崎・海)
佐藤公宣 (県北・海)
下田一雅 (県央・海)
高橋孝一 (横須賀・海)
武田守弘 (県北・陸)
廣田裕己 (横浜南・空)
渡邊孝一 (県北・海)



瑞宝双光章

〔危険業務従事者・瑞宝単光章〕

飯塚義治 (横須賀・海)

雑賀大助 (横須賀・海)
坂田和広 (横須賀・海)
永松久幸 (横須賀・海)
細山哲生 (県北・陸)
松山堅一 (武山・陸)

令和3年春

〔瑞宝中綬章〕

廣瀬 誠 (横浜南・陸)
松岡貞義 (県央・海)

〔瑞宝小綬章〕

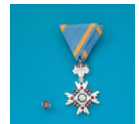
足立晴夫 (横浜南・海)
阿部哲夫 (横浜南・海)
今村修二 (横浜北・海)
高橋節男 (横浜南・海)

〔瑞宝双光章〕

平岡孝一 (県央・海)
矢野勝久 (県央・海)

〔危険業務従事者・瑞宝双光章〕

安斎 健 (武山・陸)
泉田利幸 (横須賀・海)
井上康充 (県央・海)
岡 哲之 (県北・海)
木島好紀 (武山・海)
小見山雅 (湘南・陸)
高橋和寛 (横浜北・陸)
宮崎昌明 (横浜南)
吉田 茂 (横須賀・海)
吉野和仁 (横須賀・海)
渡邊一芳 (県北・海)



瑞宝単光章

〔危険業務従事者・瑞宝単光章〕

栗原俊一 (武山・海)
中村 光吉 (横須賀・海)
永山健三 (県央・海)

終身会員の皆様へ

神奈川県隊友会会員の半数以上を終身会員の方が占めて居られます。そのため、年会員と同様に隊友紙等のサービスを継続するには、当支部としての資金に不足が生じて居ります。つきましては、甚だ心苦しく申し上げにくいことですが、次により先輩諸兄の御厚意を頂きたくお願い申し上げます。
(振り込み用紙同封しております。)

令和3年度ご寄付のお願い

1口 1,000円
2口を標準に、できるだけ多くのご協力を願えれば大変幸甚に存じます。

振り込み用紙の通信欄に近況を「記入下さい。次回秀親ホットラインでは「皆の近況」の特集を計画しています

編集後記

◆人類はまさに中国武漢に発する新型コロナウイルスとの戦いの最中であり、敵も然る者、人類のワクチン攻撃が開始

されるや次第に変異し、ワクチンも効かない強力な感染力を身につけたウイルスに変貌し世界各地で優勢な戦いを展開しております。

が、いずれは人類の勝利に帰結することでしょう。そのためには、一人一人が戦士であることを自覚し基本であるマスク着用、手洗い、うがい、3密の回避としてワクチンの接種と自己防衛に努めることこそ勝利への近道ではないでしょうか。

◆このコロナにより我が国の緊急事態への備えの不備が炙りだされ国民の意識に変化をもたらした事は喜ばしい事でしょう。なお、今の現状において東京オリンピックの開催は国民の七割以上が難しいとの感覚であります。

隊友会会員を含め多くの人がボランティアへの参加とコロナ感染との葛藤に心が揺れ動いていることと思われまふ。国のリーダーの賢明な判断が望まれます。

◆本秀親は年一回発刊し、終身会員の方々に配布致しております。今回も多くの投稿をいただきありがとうございます。おかげさまで無事第17号を発刊する事が出来ました。今後とも誌面の充実に努めて参りますのでご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。



編集子